養育里親を活用した相談例

児童相談所が関わったきっかけ

未婚で出産したひとり親（母）のケースで、ベビーベットから子どもが落下し、病院へ搬送され、病院からの通告により関わり合いをはじめました。

児童相談所がどのように関わったのか

①何があったのか教えてもらいます

子どもにけがはなかったものの、母親には、精神疾患があり、子どもにミルクがあげられず、他人が手助けすることを拒否している状況でした。
児童相談所は、何度も母親と話し合いを繰り返し、母親と子どもが安全に暮らせる方法を一緒に考えていくこととしました。

②　安全に暮らせる方法を考えている間に・・・

安全に暮らせる方法を考えるには一定期間時間がかかります。
その際子どもの愛着形成や安定した生活を確保するため、子どもを養育里親に一時保護委託することに決めました。

養育里親とは？？
様々な事情により、家庭で暮らすことができない子どもを一定期間自分の家庭で養育する里親
1日だけの短期から18歳まで養育することもある。

③　子ども達の安全を守る方法を一緒に考えます

児童相談所は、母親との話し合いを通じて、母親は、先のことを見通すことができれば、落ち着いて対応して、周囲の話を聞ける可能性があると判断し、支援のトータルコーディネートを行い、以下の機関に協働を依頼しました。

市の保健センター:子どもの育児スキル（ミルクのあげ方やおむつの替え方等）習得の手伝い
市家庭児童相談室:保育所入所や、母の自立支援医療の手続き等の援助
医療機関:母が持つ特性に対する服薬治療や定期的な通院による状態確認
養育里親:子どもを養育している間の成長の様子等から感じた助言をもらう

④　プランがうまくいっているか見守っていきます

児童相談所は、上記の関係機関と協働して約2ヶ月間母親の支援や状況確認を行いました。
また、疎遠となっていた母方祖母と連絡をとり、母親の状況を説明したところ、祖母から支援の申し出もあり、さらなるサポート体制を構築できました。

⑤　子どもが家で生活できるようになるに向けて・・・

こうした支援体制を整えていく中で、母親も安定し、わからないことがある際には、市の保健センターや市家庭児童相談室、児童相談所に相談する等周りを頼ることができるようになってきました。
2週間に1回程度、関係機関が安全に暮らせているか確認していくことを母親が了承し、母親の状態安定と子どもの安全策が確認されたことから、子どもは、家庭で暮らすこととなりました。

児童相談所がご家族と関わる中でのポイント

☆養育里親を活用した支援

今回のケースでは、安全に暮らせる方法を考える一定期間、養育里親に子どもを一時保護委託し、この間に、様々な機関と協働できるようになったことで子どもが家庭に復帰した際に安定した生活を送る環境を整えることができました。